



心筋梗塞を起こしたAさんの体験談

59歳のAさんは、妻と二人暮らし。定年まで残り1年余りの日々を忙しく過ごしていました。Aさんは風邪もほとんどひいたことがない健康体で、「健康だけがとりえ」が口癖でした。

しかし、50歳の時に受けた特定健診では高血圧を指摘されていました。妻からは毎年の健診の受診と通院を度々勧められていたものの、「体に不調もないし、仕事が忙しくて健診を受ける時間なんてない」と、それ以降、健診は未受診のままでした。

ある日の休日。妻は町内会の集まりで昼まで外出。Aさんは何をやる訳でもなく、ソファーに座りテレビを見ていました。気が付くと時刻は11時過ぎ。のどの渇きを覚えたAさんは、水を飲もうと台所へと向かいました。コップに水を入れ、口に運ぼうとしたとき、突然その瞬間は訪れました。

胸が苦しく、締め付けられる感覚を覚えたAさん。呼吸も苦しく、大量の冷や汗が体中から吹き出します。ソファーで休もうと歩こうにも足が前に進みません。その場に座り込み、胸を抑えて「ゼエゼエ」と肩で息をするのが精いっぱい。すると、今度は心臓をえぐり出されるような激しい痛みが襲います。痛みが治まるのを待つも一向に治まりそうな気配がなく、救急車を呼ぼうにも電話までたどり着けそうもありません。

この時、Aさんは初めて死を覚悟しました。痛みと苦しさでもうろうとする意識の中、「お父さん、どうしたの！」という妻の声が聞こえたところで、Aさんの意識は途切れました。

その後、妻の119番通報で駆け付けた救急隊によって病院に搬送されたAさんは、心筋梗塞と判明。4時間に及ぶ手術の末、一命を取り留めました。

退院後、Aさんは次のように話しました。「体の不調も自覚症状もなかったのに、まさか私が心筋梗塞になるなんて…。毎年健診を受けて、何か対策をしていれば…。」元気になったAさんは、今では定期的に健診を受診し、食生活を改め、適度な運動に励んでいます。

Aさんの体験は、他人事でしょうか。

CHECK!!

頭痛や腹痛、体のだるさなどの自覚症状だけに頼っていると、体の中からの本当のサインは聞こえてきません。

健診を受けることで、自覚症状だけではわからない体の本当の健康状態を知り、自分の体と向き合うこと（＝生活の改善・病気の治療）ができます。

今、そして10年後のあなたのために特定健診受診を！
自覚症状だけではわからない体の健康状態